

カルメル

霊性センターニュース



2025年9月

422号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
名古屋	2 7
諸所の企画案内	2 8
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 2

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十一章 敬虔な靈魂には、キリストのおんからだと聖書が必要である

1 子

《愛する主イエスよ、あなたと共にあなたの宴に集まる靈魂の甘美さはどれほどでしょう。そこでは、靈魂にとってこれ以上は望むことができないほど慕わしいあなたご自身を糧としてお与えになります。

涙であなたの足をぬらしたマグダラのマリアのように、あなたのみ前で心からあふれ出る涙を流したら、それは私にとって何と喜ばしいことでしょう。しかし、私はそのような心を、どこに持っているのでしょうか？聖なる涙をどこに持っているのでしょうか？確かに、あなたと、あなたの天使たちの前にあって、私の心は愛に燃え、あまりの喜ばしさに泣くのが当然のことと言えます。この秘跡においてあなたは、形色に隠れてではありますが、確かにいらっしゃるのですから。

2 目をくらます光

主よ、私の目があなたの限りない輝き^{じか}を直に見たくても目がくらみ、全世界もあなたの気高い輝きに耐えることができません。なぜなら、あなたがこの秘跡の形色のもとに隠れて、私の弱さを顧みてくださったからです。私は、天使たちが天において礼拝するお方を真実に受け、礼拝するのです。ただ私は、信仰によってあなたの輝きを眺め(二コリント 5・7 参照)、天使たちはありのままにそれを眺めるのです。私の上に永遠の光の日が訪れ、形色の影が消え失せるまで(雅歌 2・17、4・6 参照)、私は信仰の光で満足し、歩まなければなりません。

しかし、完全なお方が来る時(一コリント 13・10)、秘跡の必要はないでしょう。なぜなら、天の栄光のうちにある聖人は、もう秘跡という薬を必要としません。彼らは神の現存を限りなく味わい、顔と顔とを合わせてその輝きを眺め、神性の反映を受けて、栄光から栄光へと変容し、初めから永遠まで存在する肉体となられた神のみことばを味わいます。

3 魂を満たすのはあなただけ

こうした神秘を考える時、どのような靈的な慰めも、私には重苦しい退屈なものに見えてきます。主をありのままに、その栄光のうちに眺めるまでは、この世で見ることも聞くことは、すべて何の価値もないことばかりです。私が永遠に眺めたいあなた以外のどんなものも私の慰めにはならず、どんな被造物も私を満足させないことは、あなたがご存じです。しかし、私が朽ち果てるべきこの体をもっている間は、それはできないことです。ゆえに私は忍耐をもって固く武装し、私の望みをあなたに従わせなければなりません。今あなたと共に、天で喜び歌う聖人たちもこの世にいた間は、大いなる信仰と忍耐とをもって、あなたを待ちました。私も彼らの信じたことを信じ、彼らが期待したことを希望します。彼らが達したところに、あなたの恵みによって私も達したいと思います。それまでは聖人たちの模範に励まされ、信仰をもって進みます。「聖書を私の慰め」(マカバイ 12・9)、生活の鑑^{かがみ}とし、特にあなたの聖体を私の妙薬、避難所としましょう。



「平和と希望の種」を撒こう

～「被造物を大切に作る世界祈願日」にあたって～

種は落ちた場所に自分のすべてを委ねながら、その恵みの爆発的な力をもって、思いがけない場所にさえも、いのちを芽生えさせる。未来を生むその驚くべき力！

「キリストにおいて、わたしたちは種。『平和と希望の種』である。

不毛で干からびた荒れ野を休息と平安の庭に変える、神の霊の力…世界の様々な場所で、大地の荒廃が進んでいる、いたるところで、不正義、人権の侵害、不平の等、貪欲が、森林破壊や、公害、生物多様性の損失を生んでいるなどの厳しい現状。

気候変動が引き起こす極端な自然現象はその激しさと頻度を増し、時に、自然そのものが交換の道具、経済的・政治的利益のための取引の対象になっている。

これらの傷は罪によるもの。これは、神がご自分に似た者として造られた人間に地球を託された時に意図していたこととは当然異なる結果。

教皇は、環境に対する正義は、単なる環境保護問題を超えて、緊急に必要とされている。それは社会正義、経済、人間学の問題であるだけでなく、キリスト者にとっては神が人間に求められる義務でもあり、実際、被造物の保護は、信仰と人類の問題である。…献身と優しさをもってこの問題に取り組むことで、たくさんの正義の種が芽を出し、平和と希望に貢献できるだろう。」



「『平和と希望の種となる』教皇レオ 14、被造物のための祈願日メッセージ」より

8日 聖マリアの誕生の祝日:

誰がイエスの苦悩を知ることができたでしょう。

キリストの魂の奥底に触れておられた聖母マリアだけが、ただ一人イエスの苦しみを
知ることができたのです。

～福者マリー・ユージェヌ神父、ocd～

14日 十字架称賛:

十字架近くにとどまっているだけで

あなたの苦しみは最高の祈りです

～三位一体の聖エリザベト～

信頼の道を行く



教皇フランシスコの祈り:

幼きイエスのテレーズ、愛のメッセージとして 天国の一輪の薔薇をくださいませんか。

イエスの小さな花、わたしのために願ってください、

わたしが信頼して あなたの手にたくす恵みを。(恵みを願う・・・)

幼きイエスのテレーズ、

わたしへの神の大いなる愛を あなたのよういつも信頼するように、
あなたに倣って日々 聖性へのあなたの道をあなたのように歩むことができるように。

「神さまは わたしを見捨てられない」と深く信頼し、すべてをみ手のうちにおきます。」(テレーズ手紙 32) とのテレーズの信頼のうちに、

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートル・ダム・ヴィ

故フランシスコ教皇の言葉⑰

たくさんものを手に入れても、幸せにはなれません。

幸せは、神や隣人、貧しい人々とのつながりの中にあるのです。

人類がこの真理を真に理解するのは、いつの日でしょうか。多くの人が、たくさんものを手に入れることの中に幸せがあると考えているので、いつまでたってもこの世界から紛争や戦争がなくなるのです。

莫大な富と権力を手にした王さまのような生活こそ、最高の幸せだと、多くの人
が思い込んでいるのです。確かに衣食住に不自由する貧しい生活は、幸せとは言
い難いでしょう。栄養失調になって病気になり、死んでしまうかもしれません。飲め
ば治る薬も買うお金がないかもしれません。着る服がなければ、風邪をひいてしま
うでしょうし、雨露をしのぐ家がなければ、満足に眠ることもできません。

人間がたくさんものを持つには、お金が必要になります。キリストは、たくさ
んものを持ち、ぜいたくな生活をするからこそが幸せだという人間の思い込みを
ひっくり返すために、いらしたのではないのでしょうか。

しかし、教皇様は、ほんとうの幸せは神とつながること、そして神を通してすべ
ての人とつながることにあると教えられておられます。

(P. 九里)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（204）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

こぼれ話シリーズの導入(1)

私たちは、何らかの理由で、作家や詩人や聖人や芸術家の間から十字架の聖ヨハネを選び出し、彼と出会います。例えば、ヴァルター・ニグの『偉大な聖人たち (Grosse Heilige)』のギャラリーの中に彼は姿を現わします。カトリックではないこの著者によって、彼は「真理の秘密をより明らかにするために新しい分野を創造」できる人間の一人として選ばれました。

また『聖人の顔』という作品の中でも彼に出会います。

ジロラモ・モレッティの、筆跡学による『筆跡から見た聖人たち』にも登場します。またルイ・ラベルの有名な著作『四人の聖人たち』にも出てきます。

ハンス・ウルス・フォン・バルタザールの偉大な作品『栄光』では、ダンテ、パスカル、ホプキングズ、ペギーにならんで、多くの頁が十字架の聖ヨハネに、つまり、完全な冒険に、神秘的な詩のパラドックスに対して割かれています。

ダンテ・アリギエリの生誕 700 年祭の折に、パウロ 6 世は、使徒的書簡『アルティシミ・カントゥス』（1965 年）で、詩人の偉大な模範の一人として、彼を挙げています。

また 1975 年 5 月 9 日のキリスト者の喜びに関するパウロ 6 世の使徒的勸告『ガウデテ・イン・ドミノ』の中で、まことの喜びの代表者の一人として、彼が思い起こされています。

十字架のヨハネの存在は、人々の心を絶えず豊かにさせるものであり、さまざまな視点から彼に近づくことは、議論の余地のない彼の偉大さに対する敬意を示すものなのです。（続く）

P. 九里訳

みことばのひびき 9 月第 1 週「年間 23 主日 被造物を大切に
にする世界祈願日」は執筆者の都合より 掲載が遅れます事を
お詫びいたします

出稿次第、掲載いたします

十 字 架 称 賛

(ヨハネ3：13-17)

今日の主日は、本来でしたら暦の順番からすると年間第24主日になるところですが、9月14日は「十字架称賛」の主の祝祭日ですので、主の祝日を優先してお祝いします。このような機会をいただいた私たちは、救いの源である十字架について、ゆっくり眺めて思い巡らすことであれば、どんなに良いことでしょうか。

さて今日のみことばですが、ファリサイ派に属し、ユダヤ人たちの議員のニコデモとイエスの会話の一部です。イエスは人の子のほかには、天に上った者はだれもいないと言われ、人の子は天から降って来た者、すなわちイエス自身が天から来られた方であることを語られます。そしてこれからイエスがお受けになられる十字架を想起させる様に預言者モーセが行ったことを語り、人の子も上げられなければならないと言われます。

モーセとともに歩んだ民で蛇にかまれた者は、旗竿の先に掲げられた蛇を仰いで命を得ることができましたが、時が経つと死んでいきました。死からは免れなかったのです。しかしながら、これに対して十字架に上げられたイエスを見上げる者、即ち信じる者は、永遠に生きる者となります。人の子が上げられ、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るからです。

福音書のみことばは、言うまでもなくイエスが十字架に上げられる前の出来事ですが、この箇所を教会は「十字架称賛」を祝うための相応しい箇所として選んでいます。

イエスの十字架を眺めましょう。私たちのために目に見えない神の子が、人となられ、そのお方が私たちの救いのために、公生活の終わり、時が満ちた時に十字架に上げられ、私たちの罪を贖って下さったのです。神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛されたとイエスは言われました。世への愛、私たちへの愛はどれほどのものだったのでしょうか。そして神は、今なお世を愛し、私たちを愛してくださっておられるのです。

イエスの十字架を称えましょう。その奉献、罪の贖いによって、神の子を信じる者が洗礼を受けて神の子とされ、一人も滅びないで永遠の命を得るために、神は御子を世にお遣わしになり、十字架につけられ、上げられるのをよしとされたのです。

私たちがイエスの十字架、救いの十字架を眺めながら、見つめながら、私たち自分の十字架をしっかりと抱きとめて、担いながら、イエスの御跡を辿って歩んでゆくことができますように。神の恵みと祝福が豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第25主日 (C)

(ルカ 16 : 1 - 13)

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」

ルカによる福音書では、イエス・キリストは弟子たちに、金や世俗的な財産の危険性について繰り返し警告しており、今日の朗読も同様です。同時に、ビジネスパーソンの勤勉さと効率性を学び、霊的な生活でももっと効率的になるように、という有効な教訓があります。神から与えられた才能や神からの祝福である時間・富・所有物を賢く用いて、天の喜びを得なさい、という促しでもあります。

イエスはここで不正な管理人を褒めています。彼がずる賢かったからでしょうか？そうではなく、イエスは、彼が危機的な状況で示した知恵と勇気を褒めており、つまり勇気と慎重さを持って行動するように強く勧めているのです。善を行うための時間と機会を無駄にせず、自分の人生の最後ぎりぎりまで待つはいけません。私たちの未来は、今ここに 있습니다。時間は有限ですから、すぐに悔い改めて福音に信じるべきです。これが今日の私たちへのメッセージです。

福音によると、私たちは皆、ある意味で管理人です。私たちは自分の善の主人ではなく、すべては神のものです。私たちは一時的に管理するだけで、いつか終わりを迎えます。ですから、滅びるものを追い求め、地上の財産を貯めこんで、永遠の財産を無視するのは良くありません。イエスは管理人が利用した手段ではなく、その知恵を称賛しました。正義の世界を築くキリスト者の責任を引き受けるようにと私たちは招かれています。

私たちは、永遠の価値を持つものを優先し、時間と才能とエネルギーを神と兄弟姉妹への奉仕に捧げるべきです。「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」と常に覚えておきましょう。小さな事への忠実さは偉大です。小さな事を大きな愛をこめて実行しましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第26主日（C年）

（アモス6：1a, 4-7、1テモテ6：11-16、ルカ16：19-31）

今日の福音は「金持ちとラザロ」の譬え話です。

この話の中の金持ちは、自分の家の門前にいたラザロの貧しさに目もくれずに富を追求し贅沢に生きていました。

自分の目の前にいる苦しんでいる人の苦しみの声を聞くことができませんでした。

福音では、彼らの死後、その立場が逆転するといわれています。

しかし、福音でいわれている死後の豊かさは、今生の此岸の豊かさと関係ないのでしょうか。

福音は、死後の豊かさは今生の豊かさと関係していることを示唆しています。

この豊かさは第2朗読のテモテ書にいわれている豊かさと関係しています。

テモテ書6章6節から10節で金銭の欲に警戒することについて言及した後、11節と12節で次のように書いています。

「しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい」。

私たちの信仰生活は、単に死後の報いを求めて今、貧しく、苦しくある生き方ではありません。

キリスト教信仰が追及する「正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和」による他者との関係がすでに豊かな報いです。

アモス書や今日の福音の譬え話で言われている金持ちは、人々から搾取して富を築き、貧しい人の声を無視し、関わりませんでした。

そこにすでにここで言及されている金持ちの貧しさがあります。

福音でいわれている金持ちは、自分で関係性を遮断し、自分で深い淵を作り出してしまいました。

私たちも、何かを追及することで視野が狭くなることがあります。

人生の歩みの中でそれは避けられない時もあるでしょう。

しかし福音は私たちに、この世において、人々の苦しみの声を聞き、共に生きる中に、すでに豊かな報いがあることを伝えています。

他者を知らずに拒絶するのではなく、耳を傾け、共に生きる喜びを体験できるように恵みを願いましょう。

（P. 志村）

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年6月4日

イタリア:ローマでカルメル修道会ファミリーが 聖年の記念祝賀式典開催



2025年6月2日、カルメル修道会 (OCarm) と跣足カルメル修道会 (OCD) は、ローマで聖年の記念祝賀式典を共同で執り行いました。午後3時45分、両カルメル修道会の評議員たちはサン・ピエトロ大聖堂の聖なる門への巡礼を開始しました。

午後6時30分、ローマに滞在する両カルメル修道会の全会員が参列する中、サンタ・マリア・イン・トラスポンティーナ教会で荘厳ミサが執り行われ、カルメル修道会の修道士、修道女、信徒会員、関連修道会の会員、および友人たちが参列しました。カルメル修道会 (OCarm) の前総長ミシェル・オニール神父が荘厳ミサを司式され、私たち跣足カルメル修道会総長のミゲル・マルケス・カッレ神父が説教をされました。

その後、セントロ・インターナツィオナーレ・サントルベルトで、両修道会総本部による親睦の夕食会が開催されました。

(訳・注:小宮山延子)



いのちの言葉 9月

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。¹
(ルカによる福音書 15・6)

1

古代中東の羊飼いたちは、牧草地から戻ると羊を数え、その中の一匹でもいなくなるとすぐに捜しに行くようにしていました。彼らは羊を見つけ出すためには砂漠や闇夜も恐れませんでした。

この福音のたとえ話は、見失った羊を捜し出す物語です。羊の群れに対する羊飼いの愛はここにはっきりと示されています。羊飼いは羊がいなくなったことに気づくとすぐに捜しに行き、見つけると羊を自分の肩に担ぎます。羊は弱り果て、怯え、時には傷を負っている所以自分の力では羊飼いの後についていけないからです。羊を安全な場所に連れ戻すと、羊飼いは大きな喜びに満たされ隣近所の人を招いて一緒に喜び祝います。

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。

この物語の中では、見失う、捜し出す、祝う、この3つのテーマが繰り返し語られています。

見失う。 神ご自身である「羊飼い」が、道を見失ってしまった人を捜しに行かれるという「良い知らせ」がここに 있습니다。私たちは、様々な意味での「砂漠」をさまようことがあります。またそこで生活し、避難することを余儀なくされることもあります。見捨てられること、疎外されること、さらには貧困や誤解、不一致といった砂漠もあります。羊飼いは、このような砂漠にまで私たちを捜しに来てくれるのです。たとえ羊飼いを見失ってしまったとしても、彼は常に私たちを捜しに来てくれます。

探し出す。 羊飼いが、焦燥にかられながら必死に羊を探している様子を想像してみてください。強烈で印象的な姿ではないでしょうか。そしてようやく羊を見つけたときの喜びはどれほどのものなのでしょうか。羊も危険を免れたことが分かりどんなに安堵することでしょう。このように迷う羊を「探し出すこと」は神の深い憐れみによる行為に他なりません。

祝う。 羊飼いが友人や近所の人たちと祝うのは、喜びを分かち合いたいからです。福音ではこのたとえ話の後、他の二つのたとえ話が続きます。一つは「無くした銀貨」²のたとえ話、二つ目は「放蕩息子」³のたとえ話で、そこには憐れみ深い父親の姿が描かれています。イエスは、互いに裁き合うのではなく、喜びを共に分かち合うことがどれほど私たちにとって大切なことであるかを分かせてくださいます。私たちは誰もが皆、神によって「捜し出された者」なのです。

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。

今月のみ言葉は、私たちひとり一人に示される神の深い憐れみに対する感謝への招きと言えます。他の人と共に喜び祝うことには一体感があります。そこにはもはや「義人」もなければ「罪人」もありません。あるのは互いに喜びを分かち合う姿です。

このみ言葉についてキアラ・ルービックは、「これは、神のみ心を理解しなさい。その愛を信じなさい、という招きに他なりません。何事も頭で計算してしまう私たちは、時には『神はもう、私たちを愛することに疲れてしまわれたのではないだろうか』などと、考えたりします。…しかし神の論理は私たちの思いとはまったく異なります。神は常に私たちを待っておられます。たとえ私たちが繰り返し、繰り返し罪を犯し、何度も何度も神のみもとに立ち返らなければならないとしても、その都度、それは神にとって大きな喜びとなるのです。」(いのちの言葉 1986 年 9 月)

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。

時には、私たちも互いに「羊飼い」のようになったり、他の人のお世話をしたりすることがあるかもしれません。あるいは、以前、親しい友人だった人、または共同体や地域社会から遠のいてしまった人を愛するために、再び彼らとコンタクトをとることもできるでしょう。さらに疎外されている人、思い悩んでいる人、さまざまな苦難に遭って社会の周縁に追いやられてしまった人に対しても何らかの形で手を差し伸べることができるかもしれません。

ある先生の体験です。「私の生徒の中には、たまにしか学校に来ない子がいました。以前から数人の生徒はお金を稼ぐために学校の近くのマーケットでバイトしているのを知っていたので、私は時間があるとそこに行くことにしていました。彼らに会えるかもしれないと思ったからです。ある日、私は生徒たちを見つけました。彼らは私を見てとても驚いていました。先生や級友たちが自分たちのことを心配している、学校にとって自分たちは大切な存在なのだと知り、それ以来、彼らはきちんと授業に出るようになりました。それは、皆にとってとても大きな喜びでした。

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。

パトリツィア・マッツォーラと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² ルカ 15・8 参照

³ ルカ 15・11 参照



2025年 夏号 No.397

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(2)》
聖年の『希望の巡礼者』と
イエスの聖テレジアの中の『希望』 松田浩一

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(10) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道—祈りの道、イエスとともに
歩む道 伊従信子

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性
—創世記2章3章① 志村 武

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ＝神のいのちへの道(6) 椿 権三

風に吹かれて再び(12)—老木に花の咲く
原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(14) 九里 彰

靈的研究会講義録(28)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」
「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から
—二人のテレジアの靈的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類
—巡礼、シノドス、ニカイア公会議、新回勅
の連続性
サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く 志村 武

信仰生活の再構築 和田 誠

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（ある）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

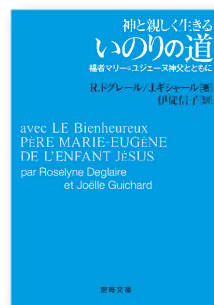
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



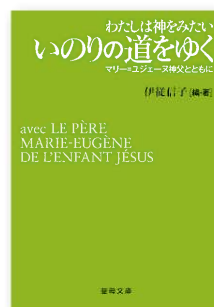
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

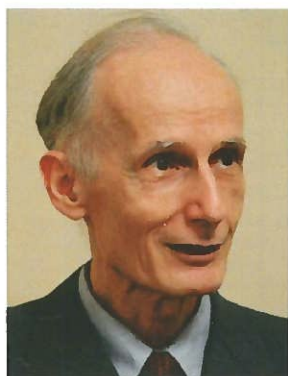
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN		
	第1巻	定価(本体+税)
I 超越体験 一宗教論	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
II 真理と神秘 一聖書の黙想	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院（黙想）**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2025 年

5 月 24 日(土) ～ 25 日(日)

7 月 5 日(土) ～ 6 日(日)

9 月 6 日(土) ～ 7 日(日)

11 月 29 日(土) ～ 30 日(日)

2026 年

1 月 17 日(土) ～ 18 日(日)

3 月 7 日(土) ～ 8 日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日 18時～最終日朝食) カルメル会士

2025 年 8 月 16 日(土) ～ 25 日(月)

2025 年 12 月 26 日(金) ～ 2026 年 1 月 4 日(日)

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2025 年 9 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

~~9/20—21~~中止 変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

9/13 11/29
2026 年 1/17 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

~~9/17~~中止 12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】（土日）午後5時から 中川博道神父

幼きテレーズ 9/27—28
アヴィラのテレジア 10/18—19
十字架のヨハネ 12/13—14

【祈りの学校】 総合編（木）午前10時から 松田浩一神父

9/18 10/9 変更 ~~11/13~~→**11/20** 12/11

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火）午前10時から 松田浩一神父

~~9/2~~中止 10/7 11/11 12/2

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般参加可

12月27日（土）夕食～1月5日（月）朝食 中川博道神父

2026 年

3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はないので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2025年9月20日（土）（14：30～16：30）

申命記主義と申命記的歴史書

その後の日程：2025年 10月11日（土）、11月15日（土）

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2025年9月27日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：古川利雅神父

テーマ：「ロス・アンデスのテレサ」と共に神との親しさを生きる

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：2025年12月6日（志村武神父）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

- ・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想

✧東洋の瞑想とキリスト者の祈り✧

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
浜名湖 リピーターの会	10/11(土)9:00- 13(月・祝)16:00	Fr 植栗	浜松三ヶ日研修所 (浜松市北区)	来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避けてください sadhana79878@gmail.com
フォローアップ	10/19(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会九段修道院	同上
入門 B	10/26 (日) 9:30-17:00	同上	同上	同上
名古屋 フォローアップ(1)	11/1(土) 9:30~17:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンタ ー (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 TEL: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 フォローアップ(2)	11/2(日) 9:30~17:00			
名古屋 フォローアップ(3)	11/3(月・祝) 9:30~17:00			
入門 C	11/16 (日) 9:30-17:00	同上	都内施設	来間(くるま) 裕美子※
サダナ I	11/21 (金)17:30 -24(月・祝) 16:00	同上	同上	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門 C への参加=入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナ I を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 9 月 18 日(水) 13:30～15:30

2025 年度スケジュール

1 月 16 日、3 月 13 日、5 月 15 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 20 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

